

# ヘルパンギーナ流行発生警報発令！

～定点当たり6.00人を超えました！～

川崎市で実施している感染症発生動向調査では、毎週、37施設の小児科定点医療機関から患者の発生状況を報告いただいています。

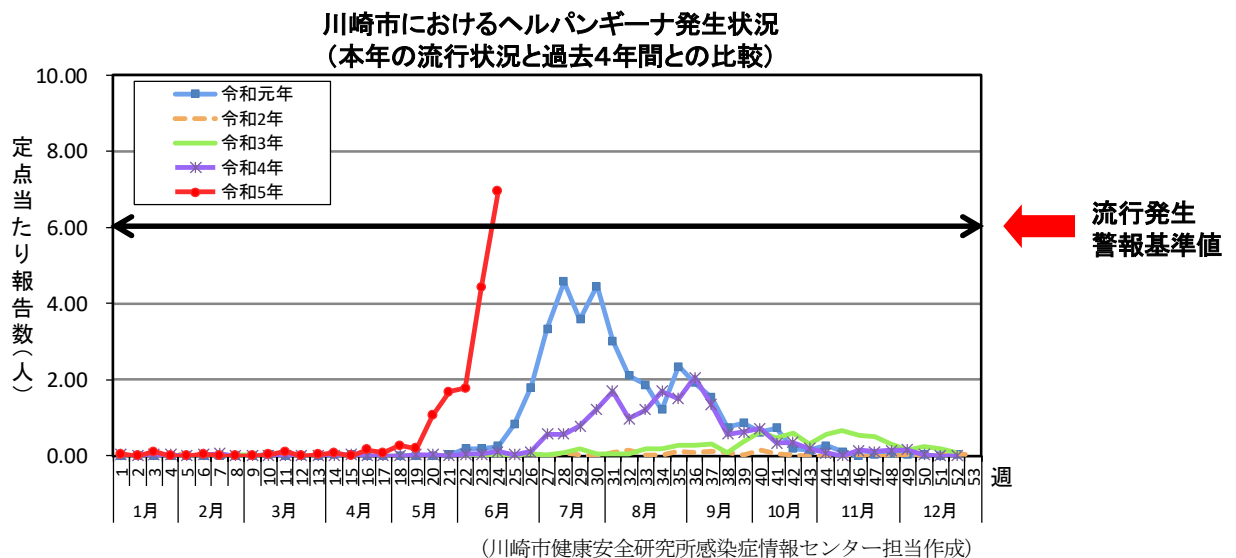
ヘルパンギーナの患者報告数が2週連続で大幅に増加しており、令和5年第24週（集計期間：令和5年6月12日～令和5年6月18日）の患者報告数が流行発生警報基準値（定点当たり6.00人）を超え、定点当たり6.95人となったため、流行発生警報を発令します。

例年患者報告数は7月～8月頃にピークとなり、保育園などでは集団感染が起こりやすく、症状改善後も便中にウイルスが長期間排出されるため、予防策の徹底をお願いします。

## 1 本市におけるヘルパンギーナ流行状況

過去10年間において流行発生警報基準値を超えた年は、平成26年、平成28年及び本年の3回です。

令和5年4月以降、ヘルパンギーナとして3検体が健康安全研究所に搬入されており、その内訳はコクサッキーウイルスA2型が1検体、コクサッキーウイルスA4型が1検体、エンテロウイルスA71型が1検体となっています。



## 2 過去4週間の定点当たり患者報告数

第20週（5月15日～5月21日）：1.05人

第21週（5月22日～5月28日）：1.68人

第22週（5月29日～6月4日）：1.78人

第23週（6月5日～6月11日）：4.41人

《問合せ先》

川崎市健康福祉局保健医療政策部

感染症対策担当 小田

電話 044-200-2446

# 流行中！ヘルパンギーナの対策をしましょう！

## ヘルパンギーナってどんな病気？

- ◇ 突然の高熱、のどの痛み、のどに白い水疱性の発疹や潰瘍などの症状がみられる、ウイルス性の感染症です。
- ◇ 乳幼児（ほとんどが5歳以下）を中心に、主に夏に流行します。
- ◇ 保育園や幼稚園では集団感染が起こりやすいため、特に注意が必要です。



## 【症状は??】

- ◇ 感染してから2～4日後に、突然の発熱（38～40℃）に続いてのどの痛みや発赤が出現し、のどの入り口付近に白い小さな水疱が現れます。
- ◇ 小水疱はやがて破れ疼痛を伴いますが、2～4日間程度で解熱し、一般的には軽症です。
- ◇ まれに髄膜炎や心筋炎などの合併症を起こすことがあるので、経過に注意が必要です。

## 【感染経路は??】

- ◇ 飛沫感染 … せきやくしゃみの飛沫による感染
- ◇ 接触感染 … 水疱内容物に触れた手などからの感染
- ◇ 糞口感染 … 便の中に排泄されたウイルスが口に入ることによる感染

## 【治療法は??】

- ◇ 特別な治療法はありませんので、症状に応じた治療となります。
- ◇ 口の中が痛むので、食事がとれないことがあります。食べ物を工夫し、脱水症状を起こさないよう**水分**を十分に与えましょう。
- ◇ 基本的には軽い症状の病気ですが、経過観察をしっかりと行い、**高熱が出る、発熱が2日以上続く、おう吐する、頭を痛がる、視線が合わない、呼びかけに答えない、呼吸が早くて息苦しそう、水分が取れずにおしっこが出ない、ぐったりとしている**などの症状がみられた場合は、すぐに医療機関を受診しましょう！

## 感染を予防するためには、手洗いの徹底を習慣に！

- ◇ 症状が消失しても、便の中にウイルスが2～4週間にわたり排泄されます。
- ◇ **接触感染**や**糞口感染**を予防するために、**流水と石鹸で手洗い**をしっかりと行うことが重要です！ ※タオルの共用は避けてください。
- ◇ 特に、**トイレの後**や**おむつ交換の後**、**食事の前**にはしっかりと**手を洗いましょう**。
- ◇ 症状の有無に関わらず、**日頃から手洗いを習慣化**し、トイレの後、おむつ交換の後、食事の前にしっかりと手を洗うことが大切です。

